

「令和4年度伊達市経営に関する説明会議（保原地域）」発言録

日 時：令和4年4月27日（水）

13時40分～14時20分

場 所：保原市民センター

参加者：94/120人

（行政推進員）

市 長：説明「今年度の市政経営方針について」（要旨別紙参照）

【質疑応答】

建設・土木関連

■だて支援学校周辺の道路について

行政推進員（大泉）：伊達支援学校の東側の橋の架け替えなどの話がありまして測量したようですが、進捗はどのようになっていますか。

建設部長：東根川にかかる菖蒲沢橋を含めたところかと思いますが、道路の幅員が狭い状況です。赤い布のようなものが現地にあるかと思いますが、支援学校の建設の関係で部分的に広げることで進めているところです。伊達市では六万坊線で、全体的な計画で国道349号線まで抜くという計画を持っているところです。現状ではなかなかそこまでは進めない状況で支援学校の東西の道路ですが、昨年度、電柱の移転をさせていただきながら道路の幅員を確保した中で交通の対策をさせていただきました。今年度ですが、支援学校の前の通りの区画線が見えない、歩道が少し傷んでおり歩くのに支障になっているので、市の方で改修したという状況です。なお、今後の予定ですが、支援学校に行くところのアクセスもございますので、支援学校の東側に伸びるところも狭いところもございますので、そちらの部分につきまして道路を広げる計画を持ちながら今後検討してまいりたいと考えております。

健康・福祉関連

■救急医療の体制について

行政推進員（中村3）：伊達市には総合病院がないです。ということは救急病院の対応ができない。なかなかお医者さんがいない、専門医がいない。将来的に考えて、お年寄りが多くなるし、伊達市ではどのような対処をするのか、どのような計画があるのか、お聞かせください。

健康福祉部長：地域医療の中での救急体制のご質問でございますが、現在、伊達市におきますと2次医療圏の中で、藤田病院を含め福島市内の病院にも救急車で搬送がされているところがございます。北福島医療センターに専門医があまりいらっしゃらないのも事実ではあります。今後、地域医療については地域で課題を

持って、今後の進め方について協議をしているところでございますし、しっかり対応していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

行政推進員（中村3）：内容的に具体的に話をしてもらえないでしょうか。

健康福祉部長：話を申し上げたとおり救急車が搬送する先では医大にも搬送している状況です。第2次医療圏という地域の中で、消防署との連携を取りながらしっかりと搬送ができる状況を取ってまいりたいと考えております。

災害復旧・防災・減災関連

■防火用水について

行政推進員（三日市2）：防火用水はあるが、市の方で容積が小さいからという理由で、水道本管とつながっているパイプを外してしまった。どんどん住宅が増えていますので、何とか水道の本管と防火用水をパイプでつないでほしい。水道課には、昨年4月2日にお願いに行きました。容積が小さいからダメだ、それは防火用水ではない、雨水だけ貯めて使ってもらいたいと言われた。住民の安心のためにも水道の本管から防火用水へのパイプをつないでほしい。

建設部長：会長さんに連絡を取って、現地の状況を建設部で再度見させてもらって、対応させてもらいたいと思います。

■道路・側溝の維持管理と横断歩道等の設置について

行政推進員（高子ハイタウン）：地震と台風が来て道路が剥がれたり凸凹している。側溝は台風により山からきた土が結構あるので、それをどこで対応するのか聞きたい。台風が来た時に洪水で民家が水浸しになったりしてしまいうので、なるべく早く側溝とか対応してもらいたい。

もう一つ、高子駅の前が道路の工事をしている非常に危ない。子ども見守り隊をやっていますが、道路を渡るのに車が非常に飛ばしてくるし、横断歩道がないのでとても危険です。阿武隈急行は通ってないので、道路を渡る人は小学校1年生と2年生が多い。阿武隈急行が通ったらお年寄りも高校生もみんな通るので、なるべく早く危なくないような道にする必要があるがいかがなものか。

建設部長：道路の段差が見受けられることではございますが、伊達市でも道路パトロールをしながら現地の確認しているところです。具体的な場所等についてはよろしければ高子ハイタウンの会長さんと一緒に確認させていただきながら対応させていただければと思います。水路の方もどのような現状になっているのかを確認させてもらえればと思います。また、高子駅前の歩行者の安全確保ですが、こちらにつきましては、横断歩道は基本的には公安委員会、警察署の所管でございますけど、道路管理者としましては、子どもの安全確保としまして徐行の看板を立てるですとか、特別な線を引くなど少し対応できる部分はあるかと思っておりますので、現状も現地でお聞かせいただきながら対応してまいりたいと思っておりますので、改めてご連絡をさせていただきます。

■避難場所の確保について

行政推進員(前屋敷):一昨年の台風19号で大泉の支援学校の場所が、東根川が越流して、周辺の町内会がだいぶ冠水して床上床下浸水の被害がありました。東根川の北側の堤防が、かさ上げされて安全のように見えますが、支援学校も当初の計画より50センチくらいかさ上げして基礎が高くなっているはずだと思います。あそこの周辺がなんで冠水するかを昔からわかっています。その辺を説明するには時間がかかりますから、あそこの支援学校の場所の周辺の道場場、大泉、大館、前屋敷はたぶん50ミリ以上の雨が降ると冠水となります。避難場所として、近くに支援学校ができたものですから、地盤も高そうだということで、近くの住民だけでも避難できないかと考えましたが、基本的な考えをお聞かせください。

危機管理担当参事:市といたしましても冠水場所の確認をしております、指定避難所の確保を進めております。新しい支援学校については、管理は県が所管になりますが、保原高校、梁川高校についても指定避難場所としてご協力いただいている部分がありますので、今後、改めて協議を進めて対応ができるようにしていきたいと思います。